

講義名	日本語C (書く)			授業形態	
担当教員	西馬 薫	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

- ・読み手を意識した論理的な文章の表現方法を身につける。
- ・200字の意見文からレポート作成まで段階を踏んで、日本語の文章力を身につける

到達目標

- ・レポート作成に必要な基本的な知識がわかるようになる。
- ・読み手を意識したわかりやすい文章が書けるようになる。

提出課題

授業内に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題提出後、個別のフィードバック及び授業内に全体へのフィードバックを行う。

評価の基準

提出物および課題（40%）、レポート（40%）、授業参加度（20%）による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

- ・30分以上の遅刻は3回で1回欠席とする。
- ・出席は毎回とる（5回以上欠席した場合は、単位を認定することができない）
- ・グループワーク等を交えながら授業を進めるので、主体的に取り組んでもらいたい。

教科書

.使用しない。

参考図書

.大学で学ぶための日本語ライティング.	佐々木理枝・細井和代・藤尾喜代子	the Japan times	1980	9784789012218
.改訂版日本語の論文力練習帳.	齋八眼子	古今書院	2600	9784772261173
.新訂版留学生のための論理的な文章の書き方.	二道信子・佐藤不二子	スリーエーネットワ ーク	1400	9784883198429

その他

授業内に資料を配付する

授業計画

1. オリエンテーション、スケジュール、評価について
レポートに使われる文体
2. 自動詞や受け身形を使った文
3. 助詞「は」と「が」の使い分け
4. 指示語
5. 段落
6. 段落
7. 意見文（200字で述べる）
8. 意見文（400字 - 500字で述べる）
9. 解決策を述べる（400字 - 500字で述べる）
10. 要約をする
11. レポートを書くための基礎知識
12. レポートを書くための基礎知識
13. レポートを書くための基礎知識
14. レポート発表準備
15. レポート発表

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 【予習】
事前に配布された資料に目を通し、語彙等の意味を確認しておく（1.5時間）
- 【復習】
フィードバックを行った課題について、日本語の表現やその内容を確認しておく（2.5時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

留学生を対象とした科目群で、論理的文章を書くことを目標にし、知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材を育成する科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教師への質疑応答の時間を設けると同時に、学生同士の対話の機会も設ける。

実務経験の有無及び活用

備考